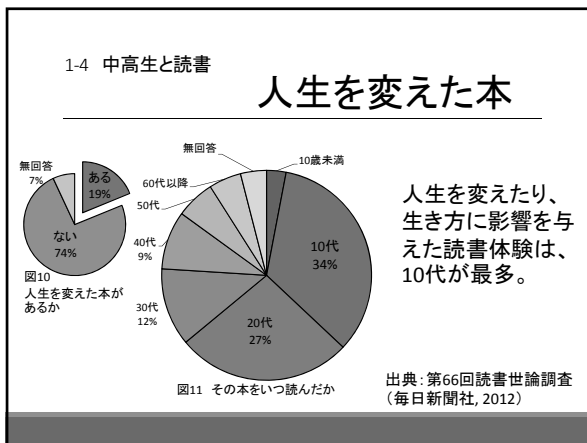
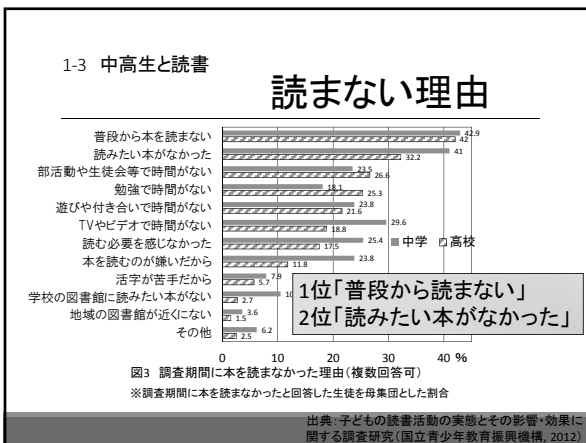
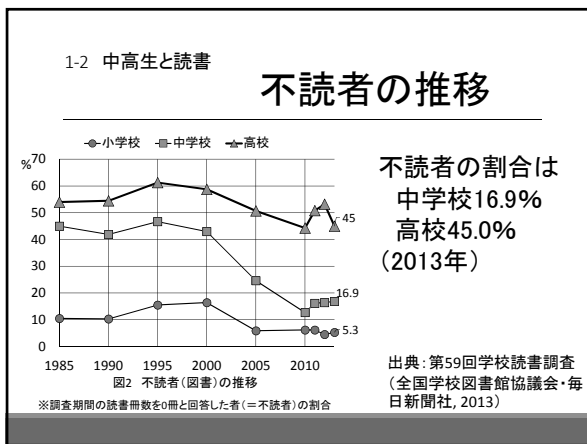
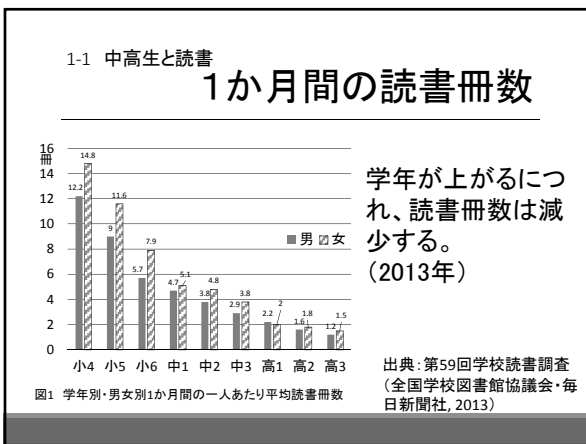


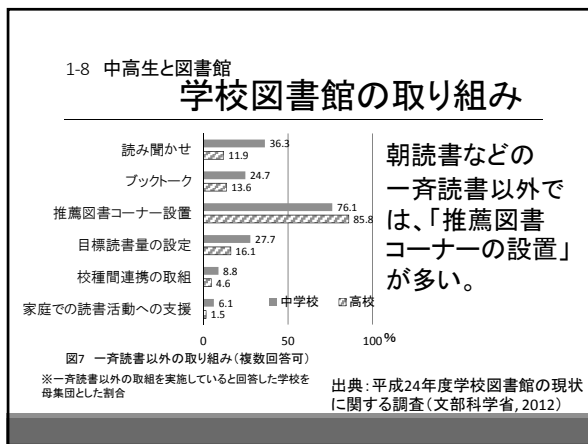
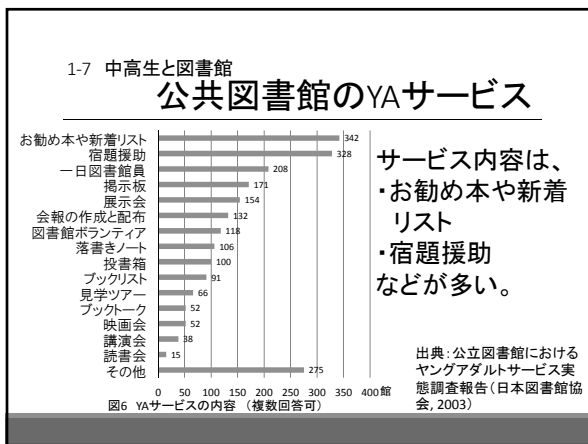
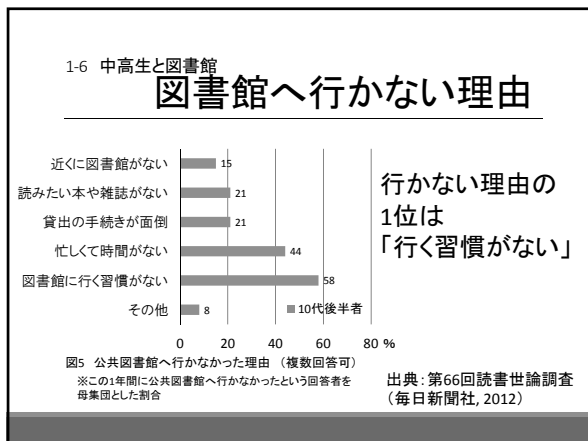
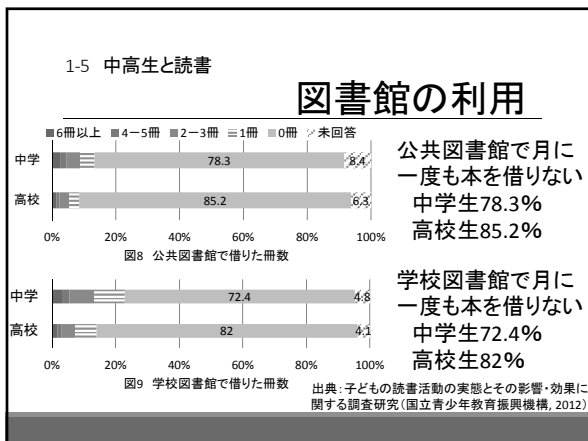
中高生向け 読書推進活動の概況

平成26年3月3日
国際子ども図書館児童サービス課
根岸 輝美子

本日の発表

1. 中高生の読書に関する各種調査の紹介
2. 各図書館での中高生向け読書案内・読書相談サービスの概況（フォーラム申込者による事前アンケート結果の紹介）





2-1 各館での読書案内サービス

サービスの概要・成果と課題

表1 事前アンケート結果のまとめ

概要と成果	課題
I 運営	I 運営
II 本の紹介・情報提供	II 選書
III サービスやプログラム	III 利用者への働きかけ
IV 連携・その他	IV 連携・その他

※具体的な集計結果は、配布資料の別紙1をご覧ください。

2-2 各館での読書案内サービス

サービスの概要・成果-1

I 運営
(1) 方針・体制
(2) 中学生向け専用スペース ①コーナーや書架 ②窓口や掲示板
(3) 広報・啓発 ①ポスター ②利用案内 ③コンクール
(4) 調査など
II 本の紹介・情報提供
(5) 紹介している資料・提供している情報
(6) 展示・掲示
(7) 印刷物による本の紹介・情報提供 ①ブックリスト等 ②情報誌等
(8) 中学生向けHPIによる本の紹介・情報提供

2-3 各館での読書案内サービス
サービスの概要・成果-2

Ⅲ サービスやプログラム
 (9)読書相談・レファレンス
 (10)プログラム
 ①講演会 ②ピリオドトル ③読書会 ④職場見学・体験 ⑤その他

Ⅳ 本の紹介・情報提供
 (11)学校への支援
 ①貸出 ②出張サービス ③その他
 (12)学習支援
 (13)中高生等の図書館活動への参加促進

2-4 各館での読書案内サービス
サービスの課題-1

I 運営
 (1)中高生サービスの未実施
 (2)予算・人員が確保できない
 (3)中高生向け専用コーナーの位置や広さ
 (4)広報の発信力不足
 (5)サービスがニーズに合っているか把握できない

II 選書
 (6)選書の難しさ

2-5 各館での読書案内サービス
サービスの課題-2

Ⅲ 利用者への働きかけ
 (7)利用の伸び悩み・図書館離れ
 (8)利用者の偏り・読書の幅の偏り
 (9)不読者層や時間のない中高生への働きかけ

Ⅳ 連携・その他
 (10)館種を超えた連携
 (11)今後のサービス展開
 (12)その他

2-6 各館での読書案内サービス
いろいろな工夫

ネーミング
 『Yomitan』(広報誌)、
 【Library☆ソムリエ】(スタッフ)

YAコーナーの位置

挿絵等の募集、
 POPコンクール

交流のための工夫
 掲示板、交流ボックス、相談窓口

学校経由で配布したり
 情報提供したりする

公共図書館と学校図
 書館との情報交換

中高生や大学生の参加
 を募る (製作、編集、スタッフ)

大学との連携

中高生の感性を考慮
 表現、形式、プログラム、
 メディア

事前アンケート結果のまとめ

(問 1) 中高生向け読書案内・読書相談サービスの概要と成果 について	(問 2) 中高生向け読書案内・読書相談サービスの課題 について
I. 運 営	I. 運 営
(1) 方針・体制 (2) 中高生向け専用スペース ①コーナーや書架, ②窓口や掲示板等 (3) 広報・啓発 ①ポスター, ②利用案内, ③コンクール (4) 研修・調査など	(1) 中高生サービスの未実施 (2) 予算・人員が確保できない (3) 中高生向け専用コーナーの位置や広さ (4) 広報の発信力不足 (5) サービスがニーズに合っているか把握できない
II. 本の紹介・情報提供	II. 選 書
(5) 紹介している資料・提供している情報 (6) 展示・掲示 (7) 印刷物による本の紹介・情報提供 ①ブックリスト等, ②情報誌等 (8) 中高生向けHPによる本の紹介・情報提供	(6) 選書の難しさ
III. サービスやプログラム	III. 利用者への働きかけ
(9) 読書相談・レファレンス (10) プログラム ①講演会, ②ビブリオバトル, ③読書会 ④職場見学・体験, ⑤その他	(7) 利用の伸び悩み・図書館離れ (8) 利用者の偏り・読書の幅の偏り (9) 不読者層や時間のない中高生への働きかけ
IV. 連携・その他	IV. 連携・その他
(11) 学校への支援 ①貸出, ②出張サービス, ③その他 (12) 学習支援 (13) 中高生等の図書館活動への参加促進	(10) 館種を超えた連携 (11) 今後のサービス展開 (12) その他

(問 3) 公共図書館や学校図書館で行われている中高生向け読書案内・読書相談サービスについてのご意見・ご要望

- 1 公共図書館に向けた意見・要望
- 2 学校図書館に向けた意見・要望
- 3 その他

◇ ネーミング

① アンケート回答には こんな工夫が見られました

- ◇ コーナー「ティーンの本棚」「ヤングコーナー」、広報誌等「Yomitan」「ブック通リスト」「ヤングアダルト YA! YA! YA!」「GATE☆BOOK」、スタッフ「Library☆ソムリエ」
- ◇ YA コーナーの位置・・・子ども室内に、一般閲覧室内に、就職仕事コーナーと隣接して
- ◇ 交流を図るための工夫・・・掲示板、交流ボックス、相談窓口
- ◇ 挿絵等の募集、POP コンクール
- ◇ 中高生や大学生の参加を募る（製作、編集、スタッフ）
- ◇ 大学との連携
- ◇ 学校経由で配布したり情報提供したりする
- ◇ 中高生の感性を考慮する。
表現、形（「読書案内は、紙ベースでは、小さな情報紙とし、中高生のニーズや気分マッチする情報発信を行って来ました」）、プログラム（Web 読書会）、メディア（ツイッター、ブログ等）
- ◇ 公共図書館と学校図書館との情報交換

□県立図書館 ○市区立図書館 ☆学校図書館

(問 1) 図書館で行っている中高生向けの読書案内・読書相談サービスの概要と成果

I. 運 営(1) 方針・体制

- 県図書館の子ども図書室は、児童資料の収集や資料に関する相談等、中学生までと定義づけて運営している。
- 児童資料室では中学生までを対象とした資料を収集している。
- ヤングアダルトコーナー設置 (12~18 歳対象)
- 児童サービス担当のうち、ヤングアダルトサービスが分掌に入っている職員が 2 名、年度毎に作成する「ヤングアダルトサービス実施内容」に基づいてサービスを行っている。10 代の利用促進企画、図書館のコミュニケーションプレイスとしての機能をどうするか考える。イベントの企画運営のサポートなど。
- 当市の子ども読書活動推進計画で中高生サービスの見直しの提案、①主対象は中学生とする、②文学に偏っていた蔵書構成を全方向にし、ミニ図書館をコンセプトに図書館利用の窓口となる位置づけにする、③全中学校に利用案内を配布する、④来館しない中高生向けにウェブサイトの情報を充実させる、⑤POP 投稿や事業など、参加できる事業を企画する、⑥コーナーで POP とともに、本の紹介をする。
- YA コーナーのテーマ展示は、名乗りを上げた職員によって 1~2 ヶ月に 1 回ほどのペースで入替えを行っている。
- 実行委員会 (YA すたっふ) を組織している。

(2) 中高生向け専用スペース① コーナーや書架

- 子ども読書室 (児童図書室内) に YA コーナーを設置。
- 中学生向けの図書を集めた「ティーンズコーナー」を設置。
- 中高生向けの展示コーナーを設置。
- 一般の閲覧室内にヤングアダルトコーナー設置 (12~18 歳対象) 2~3 ヶ月毎に内容を変えて 120 冊程度の資料紹介展示。
- YA 文庫コーナーの設置 (1996)。集英社コバルト文庫、講談社 X 文庫、角川スニーカー文庫等を配架 → YA コーナーの設置 (2001) → 1F こども資料室内。主たる利用対象は中学生。主に児童書を配架。→ YA 展示コーナーの設置 (2008) → 1F 貸出返却カウンター向かい側。主たる利用対象は高校生。一般書も含める。
- 各リスト別に図書を集めた「すいせん図書コーナー」を設置している。
- YA 展示コーナーを設置し、2 ヶ月に 1 回テーマを決めて本を紹介、展示する。
- 一般室内の一部書架に、中高生向けの本を置くスペースを設けている。その近くで、中高生や若い人へ向けた展示を行っている。
- YA 小説部門の設置。また、そのジャンル分け (例: SF、恋愛、青春... など)。
- 子ども室内の書架 1 連を、YA 書架として、中高生向けの本を配架。本は適宜、入れ替えていた。
- コーナーの移動を行い現在は「就職仕事コーナー」と隣接することになった。ティーンズコーナーは中学生を主対象としているが、今後、10 代後半から大学生、求職者を視野にいれたコーナーとコラボすることにより、新たな発展の可能性も考えている。
- 小学生から高校生までを対象としたオススメ本のポップコーナーの設置 (予定)。
- 資料展示用のスペースを一部 YA 用展示にしている。毎月テーマを変え、中高生が読みそうな本を集めて展示しているが、中高生の利用はあまり無い。
- 当館は、1 階に一般資料と YA 資料、2 階に児童書を配置している。「***おすすめの本 50」のうち、中学生向けのものだけは、1 階 2 階の両方に展示している。

② 専用窓口や掲示板など

- ジュニア向け読書相談窓口開設 「LIBRARY☆ソムリエ」には、ネームプレートにわかるような表示を付ける。
- YA コーナー掲示板を設置し中高生が自由に投稿し掲示板を通じて図書館職員やその他の中高生の利用者と交流をはかっている。
- [館内に] 掲示板を利用し、中高生の利用者に向けて図書館からの情報を発信している。
- YA との交流ボックスとお便りの掲示 (図書館員からの返事つき)。
- 「おたよりください」コーナー。用紙とポストを設け、本の紹介や疑問・質問等なんでも受け付け、返信を掲示する。

- 「本を紹介しませんか」と用紙とポストを設置し、利用者からの参加を試みる。
- 専用テーブル設置。
- 中央図書館に閲覧席・書架を伴う YA スペース。他の館については、面積、蔵書構成に応じて閲覧席、専用書架等 YA コーナーを設置する。
- ☆廊下および館内でのテーマ展示。
- ☆各学年の廊下掲示、廊下壁面の掲示。
- ☆ショーウィンドウ (年 9 回程度入替)、「オススメコーナー」、面展示コーナー。
- ☆学級文庫の設置、担任の選書による学級文庫の常設。

(3) **広報・啓発**

① **ポスター**

- 中学生向けお薦め本ポスター「読書もいいかも、読書がいいかも…！」の作成及び配布。
- 市の公共図書館では、ヤングアダルトコーナーのマスコットキャラクターや特集コーナーのポスターを市内中学校に募集している。
- ☆図書委員、先生がおすすめ本を持ったポスターを作成、掲示。
- ☆リクエスト受け付けを図書日よりポスターで宣伝。

② **図書館利用案内等**

- 学校への中高校生向け図書館利用案内の配布 (予定)。
- 毎年発行しているブックリストの配布、また新 1 年生むけの利用案内などを、学校経由で配布してもらい、図書館の利用促進を促している。
- 中学生へは、毎年 7 月に図書館利用を含めた図書案内を市内全生徒に送っている。
- 中高生向け読書案内を作成・区内全中学 (国立&私立も含む) の新 1 年生に渡す図書館案内を兼ねたもの。
- 区立図書館 YA サービス担当者会で、広報紙を発行。隔月発行、区内 11 館で掲示・配布の他、区立中学校 33 校、区内外の中高一貫校・高校 10 校、自治体の中高生対象施設 3 館へ毎月掲載 (希望する学校・施設では配布も) を依頼している。内容はテーマに沿った資料の紹介、最近収蔵した本の中から各館ごとに一冊紹介、連載コラムの文中や文末で資料を紹介、など、図書館に興味を持つ入口になるよう内容を考えている。
- 区内全中学 (国立&私立も含む) の新 1 年生に渡す図書館案内を兼ねた中高生向け読書案内を作成。
- ☆年度当初の利用促進プリント (全員・各学年向け)。

③ **コンクール、募集**

- 読書感想文 POP コンクールの実施。
- あなたのおすすめ本の POP 広場の実施→主に中高生を対象として実施。毎年 7 月頃募集開始、全作品展示・表彰 (11 月頃)。表彰式前後には作品で紹介されている図書を展示する。平成 25 年度の応募点数は 1,044 点。
- 高校を通じてイラストを募集し、送ってもらったものを挿絵等に活用している。
- 中高生が書いた短編小説、詩を夏休み期間に募集し、秋に大賞を決め、受賞作品は製本し、当館の蔵書になる。「YA 大賞」

(4) **研修・調査など**

- 学校図書館向け研修
- 図書館アンケート作成 (モニターの中高生に配布し、意見をまとめる) 今までの図書館の利用の有無。図書館で利用したいサービス。最近読んだ本。おこずかいの中で月々本へ支払う額。主に使用するインターネットサービス、アプリなど。好きなミュージシャンやアーティスト。図書館にあつたらいい、こんなサービス。
- 近隣中学校の協力を得て、中学生のおすすめ図書のアンケートをとり、リストを作成し、書架近くに置いた。
- ☆学級にどんな本がほしいかアンケート調査。
- ☆教職員から子どもたちにおすすめの本をアンケート調査し、先生方のおすすめの言葉を入れた掲示物を作り、子どもたち全員が通る場所に掲示。

II. **本の紹介・情報提供**

(5) **紹介している資料・提供している情報**

- 空想科学新聞の掲示。
- お役立ち情報 (宿題ヘルプ) 中学生・高校生のための進路・就職情報。
- 職業案内, 岩波ジュニア新書やちくまプリマー新書, この年代向きと思われる (または出版社で YA 向きとしている) 図書。
- 中高生向けの書架を設け, その中で, 中高生が手に取りやすいテーマや, 県内のハローワークで紹介された就業や啓発に関連した図書を展示するなど, 月替わりでテーマに沿った資料の展示を複数個所で行っている。定期的にテーマを替えることで足が向きやすくなっている。課題は中高生に向けた資料自体が多くないこと。YA 向けの手に取りやすい本と, 一般向けのチャレンジしやすい本などを混在させて工夫している。
- 『ヤングアダルト YA!YA!YA!』の WEB 版や文学賞受賞作品・課題図書の情報を提供しているほか, 「みんなの書き込み板」では本についての質問も受けつけている。
- 中高生だけではなく, 絵本, 児童書, ティーンズ向けの本, 研究書の新刊紹介を毎月, メールマガジンの形で登録者へ配信。
- コーナー内での新着図書の展示・紹介。
- 自館で受入したティーンズの新刊図書の表紙をコピーして, ティーンズ・コーナーに貼っている。
- 中高生専用のコーナーには, 分類番号順に配架する本とは別に, 三つの特集棚を用意している。①ヤングアダルト出版会が毎年出している「YA 朝の読書ブックガイド」で選定された本。②読売新聞土曜夕刊に掲載される「青春ブックマーク」で紹介された本。③毎年受け入れる職場体験生 (中学生・高校生・大学生) が選定した本。こちらは, 本とともに職場体験生が作成した POP も一緒に展示している。
- 「学校に! 部活に! 頑張っているアナタを応援します!」(中高生向けティーンズ応援リスト) といった内容で部活動にちなんだ本を選書し, リストにして発行。
- 課題図書をなるべく多く所蔵する。
- YA 世代特有の問題や課題解決及び児童書から一般書への橋渡しとなる資料を提供する。
- YA 世代と本をつなぐ活動及び調査研究支援の一環として資料に関する情報発信を行う。
- ★季節や学校行事や国内外のニュースに関連したトピック展示。
- ★課題図書の展示: 季節や時事ニュースに関連した本の展示。
- ★朝日中学生ウィークリー, ジュニアエラなどが本を紹介している記事を掲示。
- ★映画化, ドラマ化した原作のコーナーを設置。

(6) 展示・掲示

- 中学生向けの読書支援「子どもの本移動展示会」: より多くの本と出会う読書環境の充実。
- 紹介本にはポップをつけて手に取られやすい工夫をしている。
- 館内青少年エリア「チャレンジ! 書評合戦 (ビブリオバトル)」として, 高校生へのおすすめ本を展示。
- 高校との連携による企画展示を実施しており, 各校図書委員会活動の発表の場としても定着している。
- 中学生ボランティア作成の手書き POP を本とともに展示, 同年代 (13~18 歳) がオススメする POP ボードの設置。
- 職員によるオススメ小説 (YA と一般書) の POP 作成。
- リストを掲示し, 掲載の本を展示。
- 季節によるテーマの展示などを行う。バレンタイン, クリスマス, 食欲の秋, など。
- 昨年は学校に出向いておこなったブックトークで紹介した本の展示。
- 実行委員会 (YA すたっふ) による YA コーナーの特集展示。(貸出可) (同世代からのおススメを POP と本の展示で見ること読書案内の一助とする。
- 生徒のお薦め本のポップの掲示, 中学生の読書すいせん文の掲示 50 冊ほどの本を, その年のテーマを決めて薦めていて, 見やすいコーナーに通年展示している。(…といっても, テーマに関わらず毎年選ばれる本も少なくない)
- ★図書委員による展示: POP や帯を作った掲示を作成。
- ★月の展示などの各種展示, 季節行事やテーマ (季節・行事・授業等) による展示, 新着案内などによる本の紹介。
- ★図書委員会が積極的に活動しているため, 生徒目線での展示等も多く, 人気です。
- ★毎年一回, 教職員から 1 冊ずつのおすすめの本をまとめて小冊子にして配布, 年間を通して展示をする。

(7) 印刷物による本の紹介・情報提供

①ブックガイド・ブックリスト等単発的なもの

- 中学生高校生対象の推薦図書リスト「はばたこう！本の世界へ」、小学生中学生対象の理数系推薦図書リスト「科学読物ブックリスト」、小学生中学生対象の「ことば」に関する推薦図書リスト「ことばのブックリスト ことばこ」。県内公立図書館、小中学校・高等学校等に推薦図書リストを配布し、ホームページにも掲載している。
- ブックリスト（冊子）を都内の中学一年生、都内の高校一年生に配布。
- 中高生向けにおすすめの本を紹介したパンフレット『本ナビ』県内各校に配布。
- ブックリスト「図書館員がすすめる子どもの本 ***の子どもにすすめる本200選」。
- 県教育委員会が発行するブックガイド作成に携わっているが、本館独自で行っているサービスはない。
- 年1回夏休み前に、『夏休みの本棚～中学生におくる図書館だより』（A3 両面 ※ただし片面は利用案内と各館案内等）を作成し、市内中学校に掲示用として学級数+教職員数分を配布。リスト掲載の本は夏休み期間中、展示をおこなう。
- 中高生向け読書案内（年2回）発行。
- 中学生向け推薦リスト、ブックリスト、高校生向けのおすすめ本リストを作成中。
- 半年に一度「10代のアナタにおくるブックガイド」としてティーンズ向けの新刊本を選書し、リストにして発行。
- 旬な読み物をテーマごとに5シリーズのブックリストを発行。
- 10代におくるブックガイド『はぴ』を年4回発行・配布。紹介した本を中心に展示するなど、積極的に紹介するよう努めている。
- 区では、毎年「***おすすめの本50」を選定している。
- 年3～4回、中高生向けブックリスト（YA ペーパー）を発行し、市内小学校5～中学校2年生まで全生徒に向けて配布と、各学校図書室への配布。高校生向けには学校図書館に配布。市内図書館（分室分館含む）公民館等にも置き、無償配布も行っている。中学校向け夏のおススメブックリストを別に作成する。中学校での読書活動用に市内中学校（教員、学校図書館）へ配布。印刷し、夏の読書指導用に活用してもらう。市内図書館（分室分館含む）公民館等にも置き、無償配布も行っている。
- 読書週間の時期に合わせて、ヤングアダルトブックガイド作成。
- ヤングアダルト向けのリストを作成して、図書館内と市内各中学校に配布している。
- 夏休み前に、区立の中学生全員にB42枚の図書のみ紹介のもの。
- 年齢（幼児・低学年・中学年・高学年・中学生）によって、それぞれ50冊ほどの本を、その年のテーマを決めて薦めていて、見やすいコーナーに通年展示している。（…といっても、テーマに関わらず毎年選ばれる本も少なくない）
- ☆毎年全教員のおすすめ本リストの作成、教員による本の紹介プリントの配布。（中高それぞれ）
- ☆毎年一回、教職員から1冊ずつのおすすめの本をまとめて小冊子にして配布、年間を通して展示。
- ☆図書委員のおすすめ本をまとめた小冊子を作成。
- ☆市の教員の学校図書館教育担当部会によるおすすめの本40冊がある。
- ☆秋の読書週間に国語の教科書で紹介されている本の一覧を配り、その中の本を借りたら特製しおりをプレゼント。
- ☆読書振興ブックリスト（「人間関係を考える」「再生」等毎年テーマ設定）
- ☆新着図書案内に図書係の先生方に交代で「おすすめの本」を紹介してもらった。

② 中高生用情報誌等（図書館だより含）定期的なもの

- 本の紹介パンフレット『ヤングアダルト YA!YA!YA!』の発行 →年に4回程度発行。図書館職員のほか、同世代の大学実習生も執筆を担当し、お勧め本を紹介している。また、高校を通じてイラストを募集し、送ってもらったものを挿絵等に活用している。
- ヤングアダルト向けに、新刊図書を中心に紹介する冊子「GATE☆BOOK」を毎月発行している。館内に設置のほか、ホームページに掲載。
- YA向け読書案内「YAD」発行（年4回）、10代向け新刊案内の発行、新刊案内「YAライブラリー」を3ヶ月に1回発行している。
- 市民図書館の一部で、YA広報紙を発行している。
- 読書案内として「わいず' とんとん」を隔月で発行。館内配布のほか、市内の中学校、高校にも配布。
- YA通信を発行（年4回（A5両面、本の紹介、図書館紹介、市民の受賞者紹介等）
- 図書館職員、中高生を中心とした投稿者、市内学校司書等からの図書・視聴覚資料紹介などの情報誌を年4回発行。図書館での配布のほか、市内の小中学校・高等学校へ配布。

- 読書案内としては、『Young Adult 通信』という資料紹介のリーフレットを作成し公立中学校の生徒に配布している。
- 毎月の中高生向け図書館だより発行と、市内各中学校・各高校への配布。
- ブックレビュー「みどりの翼」(季刊)特集に沿った本の紹介(10冊)CD・DVDの紹介(2点)新着本紹介(3点)コラム・お知らせのページで構成。市内中学校、近隣の高等学校、中央図書館・分館(2館)で配布。上記の配布物と重ならない時期に、『ティーンズ通信』(A4両面)を作成し、館内にて配布。リストを掲示し、掲載の本を展示。
- 中高生向け新刊情報誌「ぺら」(B6サイズ、毎月発行)中高生向けの読書案内「図書館員の太鼓ボン」(隔年で発行)
- ティーンズ情報誌「10代のための本棚」という簡単な読書冊子を2012年度から発行。2013年度からは、年4回の発行スケジュールで担当者が作成し、区内各図書館にて配布、また区内中学校を中心に、区内の小学校や高校へも配布している。
- ☆毎月広報誌、図書館だよりを発行する。
- ☆新着案内(中学生版・高校生版)の発行。
- ☆図書委員の生徒による広報紙の発行(中学・高校別)。
- ☆市内公共図書館(3館)が発行している中高生向けの館報を紹介。
- ☆図書だより(司書だより毎月発行+図書委員会だより年6回発行)。
- ☆読書案内として学校図書館だよりで新刊本の案内を掲載している。
- ☆新着図書案内「読書時代」年20回(生徒教職員全員に配布)

(8) **中高生向けホームページ等による本の紹介・情報提供**

- ウェブでの情報発信「青少年のページ」「青少年のコーナー」「ティーンズページ」等
- ヤングアダルトのページ「べんりやん図書館」の運営 →『ヤングアダルト YA!YA!YA!』のWEB版や文学賞受賞作品・課題図書の情報を提供しているほか、「みんなの書き込み板」では本についての質問も受けつけている。
- 県内の公立図書館、小中学校・高等学校等に推薦図書リストを配布し、ホームページにも掲載。
- ヤングアダルト向けに、新刊図書を中心に紹介する冊子「GATE☆BOOK」を毎月発行し、館内に設置のほか、ホームページに掲載。
- リストをホームページに掲載するなど、広報に努めている。
- 市図書館ホームページの「10代のページ」にバックナンバーを掲載。
- 図書館HPにYAコーナーをつくり、YA通信(紙をPDF化したもの)を掲載。
- 図書館HPにあるティーンズコーナーで、WEB読書会を掲載するなど、中高生のニーズや気分マッチする情報発信を行ってきました。
- ツイッター フェイスブック HP ブログの活用(本の紹介や活動報告など)。
- 中学生向けのおすすめ本リストを作成、HPで公開している。
- 図書館ホームページには、「10代のためのYAページ」を2012年から設置し、「yomitan—読書探偵—」, 新刊案内, 人気の資料, 調べ学習に関するリンク集がある。
- 区の図書館HP内に「ティーンズページ」を設けている。奇数月に担当館のYAコーナーの書架の案内, テーマにあわせてお勧めの本, CDの紹介をしている。
- 中高生向け[Web]掲示板で中高生のオススメ本の紹介(コメントに返信しています)。
- ☆図書室ブログでの発信。

Ⅲ. サービスやプログラム

(9) **読書相談・レファレンス**

- 読書相談は、調査相談と同様に児童室カウンター、調査相談カウンターで対応。
- 当館では、読書案内等を児童や一般成人と同様に、通常のカウンター業務の中で行っており、中高生対象の独立した取り組みは、あまり行っていない。
- 夏季休暇期間のみ、「読書感想文」への読書相談。
- ジュニア向け読書相談窓口開設 「LIBRARY☆ソムリエ」には、ネームプレートにわかるような表示を付ける。
- 読書相談サービスは、来館者に対し随時行っている。都立図書館のYA向けブックリスト「羅針盤」の展示、紹介なども行う。
- 読書相談サービスは一般のレファレンスと同程度で、特に中高生向けを意識して行っていない。

- ☆レファレンスカウンターでの個別相談。
- ☆個別対応：休み時間や放課後に図書室にくる子供たちに個別対応。
- ☆整理員への読書相談は昼休み来館した生徒が、時々「面白い本ない？」と聞く程度。
- ☆読書相談には、司書や司書教諭が直接あたっている。

(10) プログラム

①講演会

- 夏休み中に「中高生のための読み聞かせ講座」を開催。
- 中高生向けに幅ひろく読書推進を行うために、YA 世代向け講演会を同世代の実行委員会 (YA すたっふ) の企画・運営にて行う。2011 年度より 3 年、3 回目。
- ☆年に 1 回読書講演会を実施 (講師 斎藤惇夫氏、金原瑞人氏、清水眞砂子氏)

②ビブリオバトル

- 図書委員会交流会、ビブリオバトル等の行事を開催している。
- 中学生を対象としたビブリオバトルの取組 (本との出会いのきっかけ作りとして)。
- 図書館行事として、中高生を対象としたビブリオバトルの開催を 4 月に企画している。
- ☆ビブリオバトルの開催。

③読書会

- 夏休み中に「中高生の読書会」を開催。
- 1 校だけだが、中学生と大人とのコラボの読書会を開催している。

④職場体験・見学

- 学校支援サービス…職場体験、職場インタビュー、インターンシップ (高校生限定)、職場見学、体験学習、体験学習支援
- 職業体験時に自分の推薦する本のポップ作成・展示。
- 中学生、高校生のインターンシップ受入。
- 学校から依頼のある「職業体験」などを積極的に受け入れ、図書館の内部の仕事の案内も紹介しつつ、ID パスワードの発行やリクエストの主な流れを紹介し、実際年齢にあったサービスを紹介している。去年は、イベント関連で職業体験を行い、その報告を図書館の HP に掲載するなどし、中高生の視点による図書館サービスを紹介した。
- 職場体験で図書館に来た中高生に POP を書いてもらい、ティーンズサービスコーナーやティーンズサービスルームに飾るなど、なるべく同世代の声を届けるようにしている。

⑤その他のプログラム・イベント

- 図書館ウォッチング
- ダンスカーニバル →図書館に併設されているライティホール (380 人収容) を会場に毎年 2 月に開催。高校生の参加が多い。当日会場で、図書館の使い方等を紹介。ダンス関連資料の展示も行う。平成 24 年度は 2 日間にわたって開催し、参加者数 513 名、見学者数 578 名 (平成 25 年度は 2/9 に実施予定)。
- ジュニア向け映画会開催
- 本の福袋
- 各種行事 YA 世代が図書館と本に親しむためのきっかけづくり及び社会的活動の経験支援のため各種行事を行う。
- ☆校内の読書週間イベント (教職員からのおすすめ本紹介など)

IV. 連携・その他

(11) 学校への支援

①貸出 (セット貸出を含む)

- 「複製資料・文化財レプリカ等の貸出事業」 目的：日本の歴史や文化に親しむ契機とする。
- 団体貸出、セット文庫の貸出
- 県立高校への支援として、調べ学習でよく利用されるテーマについて、学校貸出用資料セットを作っている。
- 中学生向けの読書支援 「学校図書館を支援する図書館・公民館図書室をサポートするセット」(略称：学サポセット)：主に調べ学習等の活動を支援する。
- 学習支援読書推進図書セット貸出、朝の読書推進図書セット貸出、学校図書館図書支援 1000 冊プラン (団体貸出、特

別貸出用図書セット、展示用セット、アジア絵本セット)。

- 中高校生に対して直接の読書案内・読書相談の取組は少ないが、高校図書館の活動支援のため、個別リクエスト対応、セット貸出、週 1 回の搬送等、手厚く資料提供を行っている。
- 中学校に対しては全クラスに朝読セット 40 冊を約 10 ヶ月貸出している。学校では、クラス間でセットを循環させている。
- 中学向けのテーマごとの団体貸し出しセットと学校との連絡便(トラック配送)

②ブックトーク等出張サービス

- 出張講座 ブックトーク
- 冊子を活用した出張講座・保育を選択している高校生への読み聞かせ講座・生徒へのブックトーク。(クラス, 図書委員会等)
- 出張講座 読書指導, ブックトーク, 紙芝居の作り方, 乳幼児との交流体験のための絵本の読み聞かせの仕方。
- 学校等からの依頼により, 年齢や興味に応じたテーマでブックトークを実施。
- 学校へ出向いての絵本講座または, 図書館利用講座。
- 市内中学校より依頼を受け, 学校図書館司書と一緒にブックトークを実施。
- 高校でのビブリオバトル, 出張おはなし会, 中学でのブックトーク, 高校でのブックトーク。
- 中学・高校でのブックトークの実施, 年齢や興味に応じたテーマでブックトークを実施。
- ☆出前ブックトーク (教室に司書が訪問)
- ☆朝読書, 国語の時間に本の紹介やブックトーク, 読み聞かせを実施。
- ☆授業におけるブックトーク, ブックレビュー (読み聞かせやストーリーテリングを含む)

③その他

- 市町村 (学校図書館) への支援として, 図書室内の配置換え等 環境改善事業に取り組んでいる。
- 学校司書との交流会で, 中学生に人気の本や作家について情報交換を行い, 選書の参考にしている。
- 市内中学校と NPO が運営している放課後の居場所へ配本を行っている。
- 市内一橋大学の読書系サークルによる YA コーナーの特集 (貸出可)
- 少し上の世代からの本の紹介。普段とは違う視点での本選びに。
- ☆併設小学校の司書との情報交換 (小学校在学中に読み終わらなかったシリーズを中学で継続して読めるよう手配)
- ☆近隣の公共図書館 (市立図書館・都立多摩図書館) の YA 情報の案内。
- ☆朝読書の推進 各出版社の小冊子の配布。
- ☆勤務先は小学校の図書館だが, 高学年向けに中学生向けの本も選書などで考慮している。
- ☆「教育実習生にインタビュー」 (高校時代の思い出等と推薦書)

(12) 学習支援

- 館内青少年エリアに, 学習応援として教科に関連する図書を展示, キャリアデザインコーナーとして, 職業案内や資格の本などを集約。
- 「スクールサービスディ」小中学校高等学校の児童生徒を対象に, 休館日を利用し県立図書館資料を使って自分たちが設定したテーマに基づき調べ学習を体験するプログラム。
- 「スクールサービスディ」→休館日に図書館を貸切りにできるサービスで, 府内の国公立学校を対象としている。中学や高校が利用する場合は, 学校側の要望に応じてブックトークや調べ学習の支援等も行っている。
- お役立ち情報 (宿題ヘルプ) 中学生・高校生のための進路・就職情報。
- 夏季休業中は「調べ物お助け隊」としてレファレンスの件数と内容を記録し, 次年度に活用している。
- 夏休み中に調べ学習のコンクールの作品作りに関する相談室 (小・中学生対象) を 5 日間開催。
- パスファインダー『ブック通(ツウ)リスト』の発行。
- 小中学生の調べ学習に役立ててもらおうよう, オリジナルキャラクターを用い, **市ゆかりの 14 テーマを含む 40 テーマのパスファインダーを作成。図書館での配布, 図書館ウェブサイトでの公開のほか, ファイル製本したものを市内の小中学校へ配布。
- 中学生から大学生まで調べ物のサポート(レファレンス)。
- パスファインダー「motteco(もってこ)」の発行 (A5 サイズ 2 つ折, 検索の基本編 + 6 テーマ)
- ☆教科の学習に関わる展示などの各種展示。

- ☆授業中に教科関連本を教員が紹介。
- ☆国語科授業で実施した本の紹介ポスターを校内に掲示など。
- ☆授業でおこなっている単元に関連した本の展示。
- ☆読書支援ではないが、本の選び方を支援した。
- ☆3年家庭科「幼児とふれあう」単元で近隣幼稚園で絵本の読み聞かせをすることになり、絵本の選び方、読み聞かせの実演、ポイント説明を行い、個別相談にも応じた。
- ☆国語科「課題読書」コーナー
- ☆授業で取り上げる単元に関する関連図書のリスト作成・配布等を実施
- ☆夏休み前に読書感想文用の本の紹介
- ☆体育祭応援パスファインダー(2年生)
- ☆情報リテラシー育成(1年生「奥付の達人」「引用のOKとNG」他)
- ☆進路コーナーPRプリント
- ☆修学旅行関連ブックリスト(2年生)
- ☆中学1・2年生への読書ノートの取り組み(ノートに載っている課題図書の中から決められている冊数を選んで読み、評価を書く)

(13) 中高生等の図書館活動への参加促進

- 県立図書館「図書部!!」
- 読み聞かせガイドブック「読み聞かせに挑戦!中学生・高校生編」の作成。
- 「中高生の中高生による中高生のためのライブラリーマガジン「Youthful Days」を有志の中高生編集委員とともに発行している。
- 放課後としょかん倶楽部のメンバーを募集し、利用促進会議を行う。
- 高校生のおはなし会を図書館で開催、サポート。
- 「yomitan―読書探偵―」と題し、各地域館から中高生にお勧めの本・CDを募り、読書案内を作成している。
- 高校生の編集による情報誌「ミヤティーン」の作成など。
- 「パタパタペーパー」2か月に1回、区で発行している広報誌。おすすめのCD、本、作家さんの紹介等を載せている。図書館スタッフだけでなく区内で公募したユーススタッフ(中学生から大学生)も記事を書いている。
- 近隣の大学の生徒よりボランティア活動の希望を受けている。
- 高校生大学生専門学生のYAサービス協力スタッフ「ユース・スタッフ」の活動支援。自発的な活動が中心、情報提供や選書の相談も。自ら考え自ら動く、を实践でき、少し先輩として冷静な分析もできる世代として、高校生以上を設定。過去には、編集者や憧れの人を取材して広報紙の記事にしたり、デザイン系の学生たちによる美術展も。
- ★整理員のお勧めより、よく本を読んでいる生徒のお勧めの方が効果的なので図書館のソムリエとして活躍してもらおう。

(問2) 貴館で行っている中高生向け読書案内・読書相談サービスの課題を教えてください

I. 運営

(1) 中高生サービスを行っていない

- フロアサービスは特に実施しておらず選書も不十分である。しかし、市町村の図書館からYAサービスへの助言を求められることも多く、今後は都道府県立図書館としても取り組んでいく必要を感じている。
- 高校生向けについては対象外となっている(高校生へのサービスは一般図書担当)。
- 一般書で中高生も対象となる資料については収集できていない。
- いわゆるYA資料を所蔵していないため、積極的な展開をしていない。そのこと自体が検討課題だと個人的には考えている。
- ヤングアダルトサービスの専用コーナーを設けたり担当を置いたりすることはできていない。
- 学生が参加できる企画がまだない。
- 4月23日の「こども読書の日」を意識した取組の一環でブックリストを作成したこともあるが高校生対象のリスト作りには至っていない。

- 高校生向けへの特別なサービスは行っていない。
- 課題として、児童書が2階にあって1階から行き来しにくいことは、小学校高学年児童や中学生にとって、本との出会いの機会を逸している場合があると考えられる。職員がそのことを意識した案内をできると良いのだが、ちょうど話しかけにくい年頃でもあり、なかなか実現できていないようだ。
- ☆中高一貫生以外(高校入学生・3年制)には、出張ブックトークを行っていない。
- ☆読書案内・読書相談がほとんどできていない。

(2) 予算・人員が確保できない

- 県立学校との物流のための予算確保ができていないため、十分な連携ができていない。
- 特にティーンの担当がいるわけではない。
- 直接的なサービスは行っていない。施設面、人的配置の面でも整っているとは言い難い状況である。
- コーナーの規模、予算ともに不足している。
- 課題は多いが、忙しさにまぎれて手を付けていないことが現状。
- 少人数のため内容に偏りがある。その子が辞めると更新が難しい。
- YA 書架を子ども室に設置した。子ども室でなく一般室に設置したかったが、施設として余裕がなかった。担当職員を配置できなかった。
- ブックトークについては、それを行える職員が少なく、また実施日を確実に設定できる日が、月1回の休館日のみであるため、条件が絞られ、実施が年1~2回にとどまっている。
- 今後の課題はYA担当者が少ないので多忙で、現状維持で精一杯なので、人数の拡大とYAの所蔵本の予算増獲得、定番のイベントの立案など。
- ☆図書委員会でのおすすめの本のPOP展示は、定期的な交換が必要。リクエストについて、今年はまだ受け付けた本を全部購入できたがいつもできるとは限らない(内容、予算)。
- ☆「教職員からのおすすめの本紹介」に協力してくださる先生が40名中8名だったので、協力者を増やして学校中で本や図書室の話が多く話題になるようにしたい。
- ☆中学生の幼稚園での読み聞かせは、全員が実演できたわけではなかった。幼稚園側の意向もあるので変更はできないのかもしれないが、中学生のことを考えればできるだけ全員が実演できるとよいと思う。全員が読み聞かせを実演している他校の指導案の例を先生にはコピーしてお渡しした。
- ☆課題は選書や除籍、蔵書点検といった時間がかかる作業を勤務時間内で消化できなくなってきた。学力向上と生徒指導を重視する先生方と図書館教育を推進する立場との違いもあり、生徒の時間をどう生かすかも悩みどころ。
- ☆週1, 2回の勤務で、出勤日以外は鍵がかかっている図書室であるため、読書・授業共に利用の少ないのが現状。まずは図書室利用の活性化が課題となっている。

(3) 中高生向け専用コーナーの位置や広さ

- 児童室内にコーナーを設置することで、逆に選択の幅を狭めてしまっているのではないかという疑問などが挙げられると思う。
- 資料配置の面では、YA向け資料を配したコーナーが三ヶ所に分散しており、分かり難い状況になっている点も課題といえる。
- 課題としては、元々中高生向けのコーナーが狭く、資料をあまり増やせないで、これからどのようにしてもっと中高生に利用してもらえるかということところです。

(4) 広報の発信力不足

- 中高生に対しての情報発信が不足している。
- サービスとしての発信力が少ない。
- 全県対象のサービス展開が困難。効果的な広報のあり方。
- HPのYAコーナーのPRができていない。更新頻度が低い。
- ☆広報誌を配布後に読ませる工夫が必要。
- ☆ブログでの発信は、ほとんど見られていないようだ。反応がゼロ。生徒たちが見たい! 読みたい! というブログにしてくてはと思っている。「図書館だより」もほとんど読まれていないようだ。魅力あるたよりを作らなくてはと思っている。

☆図書日より自体を全然読んでいない子も結構いると思われる。レイアウトや文字数の工夫が必要。

(5) サービスが中高生のニーズに合っているかどうか、効果が把握できない

- 中学生高校生により効果的にそれらを届け、来館や読書に結び付けるためにはどうしたらよいか。
- 区切られたコーナーは設けているが、専用カウンターやよくある投稿BOXのようなものではなく、その当該世代との交流や意見・話を聞く機会が少ない。市内中学生の職業体験の期間も、当日の人員配置の関係や業務内容により分業するため、接する時間が少なく、なかなか打ち解けて話すには至らないのが現状である。そういった点から、需要と供給が必ずしも一致しないであろうと考えられ、課題と感じている。
- 「10代向け新刊案内」を中高生が活用しているかは疑問がある。
- 発行までの過程にYA世代が全く関わっておらず、児童担当がすべて作成していること。
- ティーンズコーナーを設置したが、実際利用しているのは一般の利用者層で、対象とする年代の利用にはつながっていない。ティーンズ層にとって居心地が良く、足を運びたくなるような空間作りが課題となっている。
- また、リストをホームページに掲載したが、どこまで中学生に届いているのかが不安。
- 編集に時間がかかる割に、中高生が手に取っているようには思えない(ほとんど減らない)。
- 実際にそこから図書館への登録に結び付いたかという数値的には分かりにくい。
- 中高生を呼び込む事業は、大きな成果がないのが現状。
- リスト掲載の本を展示し、借りられている。ただし、自館は貸出カウンターを委託しており、また自動貸出機もあるため、その世代に借りられているかどうかはわかりにくい状況である。検証の機会が年2回の図書館補助員の交流会くらいしかない。来館者増にはつながっていない。
- 成果というものが、今のところ数値化できておらず、費用対効果がどの程度なのか、客観的な検証が必要と思われる。
- 当館にはYAの棚というものが無いので、資料展示用のスペースを一部YA用展示にしている。毎月テーマを変え、中高生が読みそうな本を集めて展示しているが、中高生の利用はあまり無い。
- 新聞等に乗った本のスクラップ帳を作成している。成果の実感はないが、たまにめくっている子がいるのは確かなので、今後も続ける。
- 保育園・幼稚園・小学校、乳幼児サービスなどは、よみきかせやストーリーテリング、ブックトークなどで施設に司書が派遣するなど力を入れているが、中高生へのサービスというのは、今まで特に重点的に行っていなかったのが現状で、10代がどういったものを求めているかなどの具体的な情報が少なく、サービスに反映することが難しい(図書館として読んででもらいたい本のラインナップと、現実に10代が読みたいと思う本の格差なども生じている)。

II. 選書

(6) 選書の難しさ

- 中高生、特に高校生向けの本の選書が難しい。
- 資料面でも課題を抱えている。中高生が好む内容の資料は、当館の選書方針から外れることが多い。このため、中高生にとって魅力的な蔵書構成になっていない可能性がある。これは、当館の選書方針が「府立」の図書館として、市町村立図書館では購入が難しいと考えられる比較的専門的な資料の購入を指向していることによる。ただ近年は、額は少ないとはいえ、YA向け資料の購入予算枠も設けられている。このため、以前に比べると若干の改善は見られるが、それでも中高生を十分に惹きつけられる蔵書とは言い難い状況である。
- 中高生へのサービスは、今まで特に重点的に行っていなかったのが現状で、10代がどういったものを求めているかなどの具体的な情報が少なく、サービスに反映することが難しい(図書館として読んででもらいたい本のラインナップと、現実に10代が読みたいと思う本の格差なども生じている)。
- 広報誌やHPは、いずれも中高生よりも上の年齢層がターゲットになってしまうことがあり対象が絞り込めていないことが課題だと思っている。
- 特集コーナーを目につく場所に設置してあるため、よく借りられるが、本来の対象者より大人の方が先に借りていってしまう。
- 利用者参加企画を最近開始。誰か・何かとの出会いがたったひとつでもあれば、と祈って反応を待っている。
- ☆アンケートを実施したが、図書室に来ない子のニーズの掘り起こしとしては大雑把すぎたので「朝読書でどんな本をよんでいるのか」アンケートをとってみたい。

Ⅲ. 利用者への働きかけ**(7) 利用の伸び悩み・中高生の図書館離れ**

- 読書案内・読書相談を提供する以前に、なかなか来館してもらえない点が大きな課題といえる。このため、中高生を図書館に惹きつける工夫が必要と考えている。スクールサービスディや各種イベントの実施もその一環と言える。
- 出張講座等、中高生の読書推進に対して一定の役割を果たせていると考えるが、都道府県立図書館の利用促進に対しては直接的にはつながっていない。
- サービスは小中学校を対象としているが、中学校の利用が少ない。
- 読書離れ、活字離れの進む中高生にどうしたら本を読んでもらえるか、図書館に来てくれるか、は永遠の課題。
- 学生とのつながりが希薄。
- 中高生の読書離れ（図書館離れ）
- 利用者が定着したことで、新規の生徒による貸出・利用は伸び悩み傾向になりつつある。また、中学生の利用・貸出共に緩やかな減少傾向にあるが、高校生に至っては、その現象が著しい状態にある。
- 図書館に目を向けてもらおうとイベント等を企画したこともあったが、人が集まらないことも多々あった。未だに試行錯誤の状態である。
- 中高生を図書館に向かわせるにはどうしたらいいかが課題。
- ★課題にした本や紹介した本から、次の 1 冊につなげることが難しく、うまくできていない。学年が上がるごとに利用が少なくなっていくが、今後どのようにして上の学年にも図書室を活用してもらえるかが課題。
- ★貸出し冊数の伸び悩み
- ★そもそも図書室に来ない子の方が多いのでその子たちの需要をどう掘り起こすか？授業でとにかく図書室を使ってもらおうと図書室が身近になるので先生方に使っていただけるように働きかける(教職員用の図書日よりでしつくく話題にして取り上げる)自分の読書の幅を広げ、その子にとってより魅力的な本を紹介できる力をつける。
- ★一方、授業の課題として一斉的な読書が出題される場合があるが、その場合一時的に生徒の読書量は増える(貸出冊数の増加等にもつながる)が、それ以降の広がりにはなかなかつながらないのが課題。生徒の内面にどう働きかけてゆくか。地道に働きかけていくしかない部分が大きいことを実感。

(8) 利用者の偏り・読書の幅の偏り

- 1995 年の創刊から、本年 10 月号に第 100 号を発行。熱心な利用者が多く、投稿者が偏りがちである。
- 「おたよりください」コーナーは、大人の方から「いい本だから読みなさい」というものと、特定の少年の質問・要望が年間 10 通程度がおたよりの全て。ただし、返信を掲示しているので、ちょっとした図書館小ネタコーナーにはなっている。
- ★「リストの本を借りたら栞プレゼント」は 419 名中 10 名の利用にとどまった。内容について紹介を入れたおすすめの本の一覧を作りたい。
- ★おすすめの本の読みやすそうな本ばかり借りられてちょっと難しそうだと思うとなかなか手に取らない。
- ★さまざまな展示や広報をしているが中学生はラノベや決まった作家(山田悠介など)を読む傾向にある。そこから脱却して、質の良い読書にどう誘うかは、大きな課題。
- ★ラノベやケータイ小説を好む生徒が多い。

(9) 不読者層や時間のない中高生にどう働きかけるか、どう届けるか

- 図書館を利用しない人への情報発信が今後の課題。本に興味を持たない人をどう魅了するのか、欲している情報のニーズに合致しているか把握が難しい。
- 不読者層の取り込みであると考える。
- 部活や通塾等で忙しく図書館に来館する機会や本を読む時間がないヤングアダルト世代に対して活用を促すためのアプローチ方法。
- 中高生向けのイベントなども企画しているが、勉強や部活動が忙しいため、なかなか参加者が伸びないのが悩み
- ★しかし、不読者(年に一度も借りなかった生徒)の数は未だに多いのが現状。さらにそれらを打開する方策が必要と感じている。
- ★自ら読書に親しむ生徒と、きっかけを設けても読書に苦手意識を持っている生徒の差が大きい。
- ★読まない、読めない子どもが多い。

- ☆部活、受験など忙しいなかで読書を楽しむ時間を確保するのが難しい。(勤務校は朝読をおこなっているが・・・)
- ☆しかし時間割変更の影響もあって貸出やリクエストが減少傾向。勉強や部活が忙しくて(校内の図書館にさえ)足を運ぶ時間がないという生徒にどれだけ強烈的なアピールをするかが大きな課題。

IV. 連携, その他

(10) 館種を越えた連携

- 現在は相互貸借や研修への協力程度だが、今後さらに県立高校との連携を進めていけると良い。中学生がもっと気軽に友達同士で本を話題にできる環境をつくるためにも、学校と連携し、中学生の参加者(観覧者を含め)をいかに集めるかが課題である。
- 学校とのパイプが希薄。
- 学校との連携は全くなく、読書から離れてしまった、若しくは、読書に興味のない生徒の対応も出来ていない。
- 学校との連携(授業支援や団体貸出、その授業の見学など)を行っているが、いまひとつ中学生にヒットするサービスになり得ていないと感じている。
- 新図書館が開館したばかりで、今後学校との連携の方法を模索している。
- 学校との連携。読書指導員が配置されているため、校内での活動は活発なところが多いが、出張ブックトークの依頼件数は以前よりも少なくなっており、学校と図書館が連携して取り組む事業は団体貸出以外では少ないのが現状。
- 2011 年から広報誌の発行・送付を続けているが、学校での対応が様々。玄関や学校図書館の入口に掲示してくださる学校もあれば、事務室で廃棄されていると思われる学校もある。高校の司書の先生方からは反応があり、生徒さんが広報紙をいつも読んでいると来館した例もある。区立中学校は、学校司書の配置はなく、学校図書館は機能していない学校が多数。なんとか連携を図りたいが、反応が薄いまま手探り状態 4 年目。
- ☆他校からの情報を得て、充実したサービスを提供できるよう改善していきたい。

(11) 今後のサービスの展開

- ポスターについての感想や図書館内の「青少年図書モデル展示」について、10 代の意見を把握し、改善につなげることが必要である。
- 今後の検討課題となっている。(読書案内 本館独自作成のブックガイド)
- 昨年開始した比較的新しい事業なため、活用してもらうための働きかけが必要だと感じている。また、セットの組み方にも学校の学習活動をふまえた工夫が必要だと思う。
- 選書の参考になる情報収集と対象への PR の仕方が課題。
- 特に、読書相談や電子書籍の今後の傾向、SNS やネットによる情報提供、効果のあるイベントの企画など(読書会など)の情報を収集し、図書館としてどのようにサービスしていくか検討したい。
- 図書館としても今後どのようにサービスを展開していくかが課題となっている。読書相談や電子書籍の今後の傾向、SNS やネットによる情報提供、効果のあるイベントの企画など(読書会など)の情報を収集し、図書館としてどのようにサービスしていくか検討したい。
- 実際に中高生の図書館利用も減少しているので、(学習席の利用はあるものの、貸出には反映されない)図書館としても今後どのようにサービスを展開していくかが課題となっている。
- 高校生へのサービス展開
- 中高校生への読書推進の方法については、乳幼児や小学生までの読書推進と異なり、取り組みそのものがあまりされてこなかった。
- 今後どのように、中高校生に向けたサービスを行なっていけばよいか方向性を探りたい。
- 今まで配付したブックレビュー『みどりの翼』の残りをどのように有効活用していくか。もうすぐ 50 号という記念号になるため、紙面をリニューアルしたり、新コーナーをつくるなど、見直していくことを検討している。
- 当館は、伝統的に児童行事が非常に充実した図書館だが、中高生を対象としたサービス向上の必要性をひしひしと感じている。
- 自治体としてコンテンツは徐々に整いつつあるが、その周知も含め、館として今一步踏み込んだ取り組みを検討したいと考えている。
- また、単に本の貸出数を上げればいいのか、それとも貸出数だけではない何か別の要因を重視すべきなのか、など、今後のこのサービスの方向性を模索している状況である。

○今後の読書相談も含め、中高生向けサービスをどのようにしていったらいいのかを、中高生の生活実態なども踏まえながら考えていきたいと考えている。

☆出前ブックトーク（教室に司書が訪問）もっと回数を行いたい。司書のブックトークのスキルを磨く。

(12) **その他**

□課題としては、学習利用でのみ図書館を使っている中高生にどう図書館の使い方を身に付けさせるか。また、読書相談とは異なるが、一般利用者からマナーの悪さを指摘されることが多く、公共性を身に付ける場としての役割も大きいように思われる。

○学生協力スタッフは、みんな忙しいので、なかなか揃わない。こっちが過度に期待すると重荷になるので、「いつでも都合のいい時でいいよ〜」という受け入れ態勢、個人的なメールでの連絡体制などが必要。無理に大人がお膳立てせず、やりたいことをやってみる、という初心にいつも立つことが今後有意義に続いていくための必要・重要なポイントだと感じる。

(問3) 公共図書館や学校図書館で行われている、中高生向け読書案内・読書相談サービスについてのご意見・ご要望を教えてください

1. **公共図書館に向けた意見・要望**

- 公共図書館へ 学校間の本の相互貸借はありがたい。しかし、県立学校は県立図書館のみのサービスしか受けられないのが残念。市立図書館のサービスも県立学校が受けられ利用できるとうありがたい。
- 公共図書館の中高生向け読書案内の取り組みや情報をもっと知る機会がほしいと常々考えている。おそらくよい取り組みは沢山行われているだろうが、その情報が共有できたらもっと盛んになるだろうと思う。区市町村あるいはもう少し大きなまとまりとして継続的に情報交流できる場があればと思う。
- 公共図書館では、中高生向けのコーナーがあるが、中高生にとって魅力的なものになっているのか考えたい。
- 公共図書館から地域開放型学校図書館の運用を支援するため、小学校の学校図書館に勤務しているが、公共図書館が夏休み前に作成配布している中高生向けの読書案内はYA世代に役立っていると思う。
- 公共図書館の児童サービスやヤングアダルトサービスと学校図書館サービスとの役割分担を明確にしている自治体の事例を知りたい。公共図書館による学校図書館サービス支援事業の先進事例と連携事業を知りたい。
- 学校現場とその学区の公共図書館が連携して、双方の読書案内を活用していく。
- 最後に、個人としては、2年前まで高校図書館の学校司書として勤務しており、中高生向けの読書推進についてはとても関心がある。県立図書館の仕組みの中で、当館の中高生へのサービスはどう考えたらよいのだろうかと思案している。県立図書館のサービスは「県内のネットワークで資料を有効活用できるような仕組みを作ること」ではないかと思っている。
- 公共図書館では、YAのコーナーがあるが、実際に利用されているかはよくわかりません。
- 市では、各館でコーナーは設置したが、担当職員は児童サービスとの兼務であり、特化してのサービスは行えていないように見受けられる。また、学校との連携が必要だと思うが、小学校に比べると、少ない。

2. **学校図書館に向けた意見・要望**

- 学校図書館は、生徒・職員の要望を充分活かしているか。司書の仕事と校内の仕事と過重になり、司書自身の読書する量や時間が減っているのも悩みの種ですが努力が足りないのかもしれない。
- 学校図書館の読書活動と授業はどのように折り合いをつけているか。勉強の妨げにならない読書活動とは？他の学校の司書の方々はどのように活動しているかを知りたい。
- 学校司書、司書教諭、図書委員会が主体的に広報活動を行うことだけでなく、管理職も含めた教職員の案内や委員会以外の生徒が本の紹介をする読書活動につなげる。
- 図書の時間の確保が難しいのであれば、道徳の時間の中に図書館利用の時間を組み込んで欲しいと思う。
- 週1、2回の勤務で、出勤日以外は鍵がかかっている図書室であるため、読書・授業共に利用の少ないのが現状。まずは図書室利用の活性化が課題となっている。
- ビブリオバトルや小学校で行う図書館探検のようなものがあるといいのではないかと思います。

- 公共図書館ではHP等で案内がある。学校図書館では、書籍購入の際にはその知らせやあらすじ等案内が掲示される。学校図書館には補助員が配置されているが、本に関してのエキスパートがどうかは不明。特にYAについて詳しい人というのはなかなか難しいのかもしれない…但、中学校については学校図書館の補助員は本に詳しい人が有り難い。
- 学校図書館では、どのように読書案内や読書相談サービスを行っているのか、すべては「人」だという思いがあるが、個人の努力、資質に頼っていると、その人が異動すると、続かなくなってしまう。以前より人は配置されてきていると思うが、「読書案内」や「読書相談サービス」がどのように位置付けられているのか伺いたい。学校図書館では、まず図書館利用指導が重要だと思う。(全員が読書家にならなくてもよいが、必要な資料を入手できるように)

3. その他

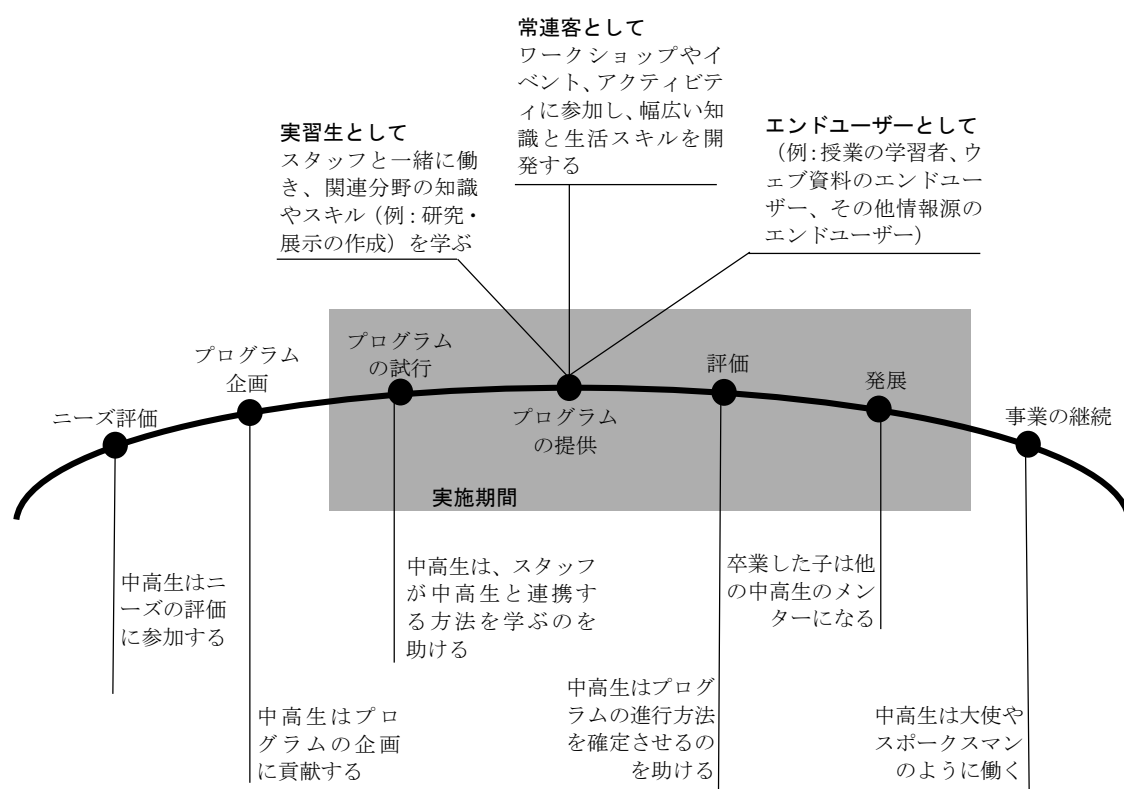
- 中高生だからこそ、必要とされているサービスを考えたい。中高生が自分たちで取り組める、参加型の取り組みがあれば知りたい。
- どのようなサービスが効果を上げているのか。ビブリオバトルなどのイベントへの参加状況。
- 大学の司書教諭課程において、「読書と豊かな人間性」などの授業科目を担当している。ビブリオバトルなどの読書推進の手法に注目し、勤務先の大学(大学図書館)において、図書館職員とのコラボレーションでこれを実践している。数多くの書物が氾濫する中で、一体どの本を読めばいいのか。悩む中高生も多いような気がする。ビブリオバトルについては賛否両論あるが、読書へのきっかけ作り(読書案内)として有効であると最近考えている。
- 要望。読書会の開催。ティーンエイジャーに薦めたい本がたくさんあるのだが、実際に手渡して行く場がない。現在は推薦図書ポップをつくっているが、理解を深める読書会があるとよいと思う。自分達だけでは集客力に不安があり踏み切れずにいる。
- 図書館に入ると、まず目に付くところに雑誌や今話題の書籍等がディスプレイされており、興味をそそられると感心する。すぐに手にとって眺めてみたいという気持ちになる。一方で、その後、その話題に関連する書籍類がどこにあるのかわからないときがある。動線が見えるとより良い。
- 文庫を開いて8年が経ち、利用している子供たちも成長している。読書会を開いて絵本・児童文学・ヤングアダルトの独自の勉強会をしているが、このような機会を利用し更に、中高生の読書の世界を広げたい。
- 中高生向けの読書案内・読書相談サービスは、学齢期前や小学生向けに比して少ないように思われますが如何でしょうか。また、読書案内をされているところでも文学中心であることが多いように思われます。幅広く読書を捉えられるような読書案内を考えられてみてはどうでしょうか。
- 中高生には、読書会やビブリオバトル、調べ学習の発表のような、自分から発信する形で読書(調べることも読書として)にかかわらせることが大切だと思います。大学の講義でこのような活動を入れると、「高校生までに経験したかった」という声を聞きます。
- ライトノベルズ ベストセラーばかりが流行り、人気がある状況でいかに読書へと導いていけないのかその方策が知りたい。
- 小学校の図書館で働いているので、中高生の読書環境についてはあまりよくわかりません。中高生むけのお勧め本リストなどもあるといいなと思う。
- 「YA サービス」という呼び方は一般的ではないと思う。別の呼び名やコーナーの方が楽しそうに感じる。

(パネルディスカッション参考資料)

図書館・博物館プログラムの中で、中高生はどんな役割を果たせるか？

中高生を対象としたプログラムを魅力的かつ効果的に行うには、中高生に様々な役割を与え、プログラムの運営全体に関与してもらおうとよい。以下の弧形の図は、中高生が関与できる部分と彼らが果たせる役割を示している。中高生は、貴館のプログラムに、どの役割で関与しているだろうか？

図書館・博物館プログラムに参加する中高生の役割



米国の博物館・図書館サービス機構 (IMLS) が刊行した、博物館・図書館が効果的で魅力ある若者向けプログラムの開発を支援するためのガイドブック *Nine to Nineteen: Youth in Museums and Libraries; A Practitioner's Guide* から抜粋・仮訳した図。

Institute of Museum and Library Services. "Nine to Nineteen: Youth in Museums and Libraries; A Practitioner's Guide." 2008, p.12, (online) available from <http://www.imls.gov/assets/1/workflow_staging/News/750.pdf>

参考 E796 - IMLS, 図書館・博物館の若者向けサービス企画用ガイドを作成. カレントアウェアネス. No.129, 2008, (online) available from <<http://current.ndl.go.jp/e796>>